

2019年の校区社協の活動から 「安心、安全」な「福祉のまちづくり」を目指そう

第44回定期総会

平成31年4月29日(土)午後1時30分から、明和福祉館で、各町内会長、同福祉部長、民生委員児童委員、校区あいご会長ら、福祉推進員38名が出席して、開催されました。来賓として鹿児島市社会福祉協議会の池田和弘課長のご臨席をいただきました。

若葉町内会の西森功会長が議長に選出されて議事に入り、前年度の活動経過報告、決算および会計監査報告、続いて新年度活動方針と予算が審議され、いずれも原案通り承認されました。

本年度の重点目標は、昨年度に引き続き「めいわ安心ネット」のさらなる拡充を最重点課題と位置づけて、①町内会が中心になり、民児協、福祉館がサポートして活動を推進する。②要援助対象者(世帯)の会員を見守る体制を構築するために、福祉ボアンティアを募集する。③校区内を業務上巡回される郵便や新聞配達員、牛乳配達員などの協力を得て、非常時の通報、連絡体制づくりを進めていくことなどが決議されました。

新年度活動方針での主な決議事項は次の通りです。①介護講習会②町内会長と民生委員児童委員との意見交換会③ボランティア活動研修会④福祉の集い及び福祉相談会を開催する。



明和校区社協の総会
明和まちづくり協議会
総会開催される

平成31年5月25日(土)午後13時30分から明和小学校コミュニティルームで明和まちづくり協議会総会が開催されました。

明和まちづくり協議会も5年目を迎え平成29年度より令和3年までの5年間のまちづくり目標、計画プランの3年目がスタートしました。明和まちづくり協議会、伊地知紘徳会長の挨拶の後、議長を選出して平成30年度事業報告及び収支決算報告並びに平成31年度事業計画案及び予算案等が審議され全ての議案が提案通り全会一致で可決されました。

今後は、明和校区で行う事業及び行事は明和まちづくり協議会のもと、各専門部会が担当して行うことになりますので、地域住民の方も明和校区の事業及び行事には町内会を通じて積極的に参加してください。



城西公民館長あいさつ

町内会長と民生委員児童委員との 意見交換会

平成31年6月8日(土)午前10時00分から午前12時00分まで、明和校区各町内会長と明和地区民生委員児童委員、市社協地域福祉支援員等29名が参加して、10町内会を3グループに分けて意見交換会を開催致しました。テーマ(見守り)で、各団体を通じて出来る人が出来るとときに子供から高齢者の見守り、安心安全の為、施設や公園にのぼり旗を設置する。

一人住まいの方は特に安心ネットに加入してもらうなど、活発な意見交換で有意義な話し合いができました。今後も、町内会を中心に民生委員児童委員と連携し進めてまいります。

また、本日のテーマ毎の問題点については明和校区社協役員会で協議して進めて行くことになりました。



意見交換会

ボランティア活動研修会

令和元年9月14日(土)午前10時00分から12時30分まで、明和福祉館で、心をつなぐともしびグループの会員、明和安心ネット員、避難行動要支援者・避難支援制度の支援員、民生委員児童委員、町内会長、同福祉部長、明和校区社協役員、明和福祉館員ら62名が出席して開催されました。

テーマは「認知症の人も住み慣れた地域で暮らし続けられる地域づくり」と題して、長寿あんしん課主査 西 晴子保健師の講話で、鹿児島市の65歳以上高齢化率26.7% (H31年4月) 全国平均27.7%で年々増加していく中で、全国の平均寿命男性81.25歳、女性87.32歳、また、健康寿命は男性で72.14歳、女性74.79歳で、これからも急速に高齢化社会が進んで長寿国になる。そうした中で認知症の症状および種類と特徴、予防などについて、最後に本人と家族だけで悩まないで、長寿あんしん相談センター(地域包括支援センター)などの相談機関と連携を図りながら、住み慣れた地域で皆さんのが支え合い見守ることが大事だとお話をっていました。



ボランティア活動研修会

福祉の集い

令和元年10月26日(土)午前10時00分から12時30分まで、明和福祉館(1階、洋室)で、ひとり暮らしの高齢者(70歳以上)と障害者の方、民生委員児童委員、校区社協役員、町内会長、福祉館職員等78名が参加して福祉の集いが開催されました。

プログラム一つ目は、鹿児島県認知症と家族会の水流涼子氏「認知症サポーター養成講座」をテーマに講話されました。

全国の認知症にかかっている人が730万人のこと、その中で、認知症を引き起こすおもな病気、アルツハイマー病約50%を占める、レビー小体型認知症15%、脳血管性認知症15%、その他20%を占めるところで、認知症の診断は初期ほどむずかしく、熟練した技術と高度な検査機器を要する検査が重要で、早期発見、早期受診、診断、早期治療が重要なことです。認知症の人への対応の心得として、「①驚かせない②急がせない③自尊心を傷つけない」具体的対応7つのポイントについて「①まずはみまもる②余裕をもって対応する③声をかけるときは1人で④後ろから声をかけない⑤やさしい口調で⑥おだやかに、はっきりした話し方で⑦相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応する」今後も、増加傾向で安心安全に住みやすい環境を作るため各団体などと協力していくことが重要です。

二つ目のプログラムは、めだかグループ代表下迫幸夫婦の「楽器演奏で懐メロを」青い山脈から最後は港町十三番地、計5曲を参加者全員で合唱し楽しい時間を過ごしました。お楽しみ交流会終了後、皆さんと一緒に「ふれあい会食」をしながら歓談しました。



福祉の集いの講話とお楽しみ交流会